

第155話 中山の観音信仰

中山町 歴史散策

村山郡の観世音参詣については、堂宇や棟木の納札に刻まれている言葉から、当時の様子がわかります。近隣でも古い観音堂である天童の若松寺の納札には、次のような文言が記されています。「願依此功勳現世安穩後生善処羽州最上郡卅三度順礼宇多郡(奈良)住人大永六季再成三月十七日 敬白 慶玉」

歌を奉納したとありますから、御詠歌や和讃も唱えられ始めていたのだと思われれます(『山形市史』より)。

元和8年(1622年)、最上家が改易、幕領となり、世も落ち着きを見せた寛永13年(1636年)には、岩谷村から、十数人の行者姿の同行者があり遠く秩父三十三観音詣に出立しています。この様子は、次にお話することとしましょう。

【用語の説明】

堂宇・四方に張り出した屋根(軒)を持つ建物のこと。
棟木・屋根の一番高い位置に桁行方向に取り付ける横木のこと。屋根を支える重要な部分。
納札・巡礼者が寺や霊場等に参拝したしるしに納める札のこと。
和讃・日本語の歌詞による仏や菩薩の徳を賛美する歌のこと。

※引用 中山町史 中巻
第10章第1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.22

こんにちは、協力隊のサジキです。まだ2月というのに畑に青々とした雑草が生え始めていますね。先日、雑草を見て思わず「もう柏倉家も草取りさんなねのか…」とポロッと口走ってしまい、2年の月日を唐突に感じてしまいました。

中山町には、柏倉家をはじめとして歴史や民俗風習の様々な遺物や文化が残っています。もちろん、どこの市町村にもその土地でしか育たない文化や歴史があるのですが、中山町は小さい面積の割に多彩な分野の遺物が残っている点に興味深いです。

その中の1つ、口寄せ巫女の「オナカマ」に関して、昨年末に「ほんわ館」にDVD『オナカマと岩谷観音』が寄贈されました。

元々は1980年に山形県教育委員会が制作した映像なのですが、当時のデータはスライドフィルム…。今までは再生機器が劣化しているためお蔵入りしていたそうですが、昨年この資料を探していた山形大学の阿部宇洋先生が、誰でも閲覧できるようにとDVDにデジタル化し直してくださいました(教育委員会談)。

口寄せ巫女オナカマの風習を20分程度でまとめてあるのですが、なんとと言ってもオナカマの口寄せの音声の一部記録されている点が貴重です。どうやら県内の図書館・博物館で本資料があるのは中山町だけのようですよ…(図書館横断検索をする限り)。

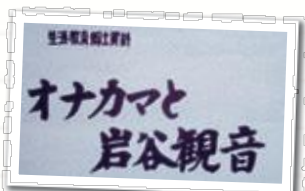
今回、デジタル化した際に私も少しだけ関わらせていただいたこともあり、所属している中山町郷土研究会で阿部先生に講演をしていただくことになりました。2月22日(土) 13時30分から、中央公民館で行います(お知らせ版に掲載)。デジタル化した際のお話も交えつつ、近年の地域資料研究についてお話しいただく予定です。ぜひお気軽にお越しくださいませ。

●協力隊への問い合わせ先●

メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階



図書館のDVDコーナーに新着



映像冒頭の画像